

Profile



くめはら けいたろう 糸原 圭太郎

安中市出身。
京都大学経済学部卒。
競技かるたの「札を払い飛ばす」独特の動きに魅せられてのめり込んでいく。
かるたクラブで腕を磨き、中学2年生でA級(競技かるた級位最上位)に昇級。

高校1年生のとき、個人戦でA級クラス優勝。団体戦でも群馬県チームを高校生大会優勝へ導く。
京都大学在学中は、京都大学かるた会に所属。京都大学として、団体戦初優勝に導く。
2019年に競技かるた名人位を取得。
令和3年1月に行われた競技かるた大会で3連覇を果たす。
京都大学在学中にオンライン個別指導塾「となりにコーチ」を起業。公式LINEで勉強法も発信している。勉強法に関する本を多数出版。

「記憶力」が生かされているなど感じます。また、私は学習塾を経営しているのですが、名人になってからかるたをきっかけに、塾のことは知ってもらえることも増えてきました。生徒さんとかかるたの話で盛り上がることも多いです。逆に大きな大会の前に生徒さんから応援してもらえることは、かるたをするうえで原動力にもなっています。

そこから当時の様子を感じることができ、非常に魅力的だと思います。

■トレーニンング方法

市長…勝ち続けるためにやっているトレーニンング方法などありますか。
糸原…まずは、シンプルに対人戦をやることですね。競技かるたにおいては、対人戦がメインです。多くの人と戦う中で、一戦一戦を振り返り、良かった点と反省点をしっかり確認することが中心になります。また、かるたにはスポーツ的な側面もあるので、コンディショニングも大切です。睡眠リズムを整え、体調管理をし、体重も調整しています。体幹を鍛えることも重要で、毎日プランク(体幹のトレーニンング)をしますし、手首や指先のト

レーニンングもしています。

■ルーティン

市長…試合に勝つためのルーティンがありますか。
糸原…自然体でいることを心がけています。試合前だからといって、特別なことはしないで、普段と同じように過ごしています。名人戦のときも、先輩や後輩が応援に来てくれましたが、いつもと同じように談笑してリラックスしています。



市長…大きな試合の前でも普段どおり過ごしているのですか。
糸原…初めて名人戦に挑戦した時は、最寄りのホテルに宿泊して余裕をもって試合に臨もうとした結果、いつもと違う環境だったため、5回戦という長丁場に響いてしまったのかなと感じています。自宅から直接会場へ向かうようにしてから調子も良くなってきたので、ある意味ゲン担ぎのように思っています。

■ふるさと安中

市長…安中で高校までを過ごされましたが、思い出に残っていることを教えてください。
糸原…今、思い出したのは新島裏の旧宅です。小学生の夏休みの朝のラジオ体操の会場だったので日常の一部でした。大河ドラマで新島襄のことが放送されたときには懐かしく感じました。京都には同志社大学や同志社女子大学があるため、不思議な縁みたいなものを感じています。

市長…学校行事で好きだったことや思い出はありますか。
糸原…運動会がすごく好きでした。小学3年生のときのことが強く思い出に残っています。当時、榛名団だったので、3、6年生がひとつの団になって戦うため、最後のリレーで逆転優勝した時には、心の底からうれしかったのを覚えています。そのとき的情景まで鮮明に思い出せます。京都に来てから、「山」で組分けしているのは群馬県特有のものというのを知って驚きました。